令和５年度
北杜市立小淵沢小学校

研 究 の概要

研究主題

生き生きと学び合う児童の育成
～学級づくりと ICT の効果的な活用を通して～

研究の概要

生き生きと学び合う児童を育成することが本研究の目的である。そのために、生徒指導・教育相談・特別支援教育の知見を生かすことによりルールとリレーションを確立し、学びの母体である学級の育成を図る。

更に、授業において ICT の効果的な活用による主体的・対話的で深い学びのより一層の充実を図ることにより、生き生きと学び合う児童の育成を図ろうとするものである。

キーワード

主体的・対話的で深い学び　ICT 活用　学級づくり　授業力　学級経営力　共同体感覚（所属感・貢献感・信頼感・自己受容）

Ⅰ　主題設定の理由

1 本校の特徴

本校は山梨県の北西部に位置する北杜市にあり，学校は標高 846m の高冷地にある。夏の避暑地として全国的にも名前が知られており，都市部からの移住者も多い。特にその豊かな自然をはじめとする風土は，児童が育つ環境として注目され，転入生も毎年見られる。それにともなって，都会の感性や感覚など，異なる価値観や文化も入ってきている。

本校の最も特徴的な行事といえばやはり八ヶ岳登山である。昭和 32 年以来続く伝統的な行事「八ヶ岳登山」は北杜市小淵沢町にある編笠山に全校児童が登る行事であった。新型コロナウイルス感染症等により，その実施形態は変わってきているが、令和 5 年度もまた、実施された。

ところで, 本校校区を象徴する言葉が, 古くからこの地に生活してきた人々と, 様々な地域から移住してきた人々が共に暮らす地域としての「多様性」である。多様な価値観や文化をもつ家庭から様々な個性をもつ児童が通学している。これは一見すると「指導の難しさ」を連想するデメリットとして捉えられるが，反対にこの「多様性」こそ，本校の教育資源であると考えることもできる。それは現行の学習指導要領のねらいの実現，特に，今後一層進む，多様でグローバルな社会を生きる児童たちを育てる環境として活用できると考えられるからである。多様であることの困難さに対応するためにも、学級内にルールとリレーションの確立を図りどの子供にとっても居心地のよい、やる気が出る学級をつくることが第一である。反対に、その多様さから一つの「もの，こと」に対する考え方の違いが生まれ，そこに対話と新しい気づき，生き方が創造される。そしてその対話を活性化するためにも，ICT を活用した授業の展開が有効であると考えた。例えば従来の授業では積極性のある数人に発言が偏りがちであったし，その傾向は学年が上がるにともなって強くなった。しかし，Teams（Microsoft）やムーブノート（ﾍﾞﾈｯｾ）を使うと，クラス全員の意見が簡単に一覧できる。さらにその意見にコメントし合ったり，話し合ったりすることもできる。つまり今まで表に出にくかった児童の考えや意見にもスポットライトが当たる可能性が出てきたということである。

さらに本校は「コミュニティ・スクール」として昨年度スタートした。これにより，児童の安全・安心や，学習環境の整備，基礎的な学習支援，広報活動などの教育活動の支援に地域住民が参画し，協働的に進められるようになるであろう。そして，学校が一方的に支援されるのではなく，学校が地域に対してできることを考えていこうという考えも伝統的な教育活動の中にすでにあり，それらの価値をとらえなおし，一層児童が主体的に地域とともに，対話的，協働的に取り組めるようにしていきたいと考える。

3 本校の校内研究の継続性

令和３，４年度と「原っぱ教育実践モデル校」としての指定を受け、「生き生きと学び合う児童の育成～ICT の効果的な活用を通して」という研究主題の元，ICT を活用した授業実践を通して研究を深めてきた。令和５年度からは、それらの授業実践を支える学級づくりについても研究と研修を進め、生き生きと学び合う児童の育成を図ろうと考えた。

Ⅱ　研究の目的

学級づくりと ICT の効果的な活用を通して，生き生きと学び合う児童を育成する。

Ⅲ　研究の目標

1　教員の ICT 活用能力を高める。（北杜市教育委員会作成北杜市 ICT ステップアップシー

トに沿って）

北杜市 ICTステップアップシート

令和３年7月末に行った「ICT活用指導力アンケート」の結果を基に、ICTステップアップシートを作成しました。ICTを活用した指導力の向上を図るうえで必要な知識、技能となりますので、各校で担当を決めていただき、取り組んでいただきますようお願いいたします。

令和4年度の到達度のめやす　各校８割以上の教師がステップ３
各校4割以上の教師がステップ４

スキルアップを図るために

１．各校における校内研修の充実（ICTに秀でた教師を中心とした質問し合える関係）

２．ICT支援員、指導主事、北杜市ICT活用研究会の実践例等の積極的な活用

３．ICT操作マニュアルの活用（インターネット上にないものは、市教委にて準備します。）

（　　）学校　氏名（　　）

※赤字は、特に大切なスキル　※根ねできている場合は、チェック欄に○をつける。

	ステップ１（～１０月）	チェック	ステップ２（～12月）	チェック	ステップ３	チェック	ステップ４（令和4年度末の到達目標）	チェック	ステップ５
Teams	・チャットに投稿できる。（文章、写真） ・投稿されたデータを閲覧できる。		・授業や校務において、作成した資料をTeamsで投稿することができる。		・「Forms」で作成したアンケートや小テストにおいて、児童生徒が撮影した写真データやwordファイルを添付・提出させる方法がわかる。		・課題機能を使い、課題設定やクラスノートブック等を使用できる。		
	・ビデオ会議に参加できる。		・任意のチームを作成することができる。 ・チャネルを追加することができる。		・参加者を決め、ビデオ会議を主催する方法がわかる。		・ビデオ会議で画面共有をして参加者に資料等の説明ができる。		
office365	・ノートパソコンで「office365」のサイトを開き、ログインすることができる。		・「Office365」のサイトで、「Forms」を使ってアンケートや小テストを作成することができる。		・「Forms」で作成したアンケートや小テストを児童生徒に配布し、回答結果を閲覧できる。		・「OneDrive」に保存されている「Excel」や「PowerPoint」等のデータをteamsを使用してリンク等を周知し、共同編集作業を実施できる。		
	・「office365」のサイト上で「Word」「Excel」「PowerPoint」の作成や編集をすることができる。		・「OneDrive」にデータを保存することができる。 ・「OneDrive」に保存されたPDFデータ等に書き込みができる。		ステップ２のスキルに慣れる。		・「Office365」の機能（「OneNote」「whiteboard」「sway」等）を活用できる。		・活用方法を、他の教員に紹介したり、アドバイスすることができる。
	・「office365」のサイトからOneDrive内のデータを見ることができる。		・「OneDrive」に保存されているデータを印刷することができる。		・「OneDrive」に保存したデータを「Teams」等で他の教員に送ることができる。		ステップ３のスキルに慣れる。		
児童生徒による端末の活用に向けた指導	・カメラアプリで写真、動画を撮影し、保存データを確認させる指導ができる。		・写真の編集や活用方法の指導ができる。（Windowsフォトアプリで編集したり、編集したものを教科等で活用）。		ステップ２のスキルに慣れさせる指導を継続している。		・動画の作成、編集の指導ができる。（「Windowsフォトアプリ」等）		
	・QRコードリーダーで教科書等のQRコードの読み取らせる指導ができる。		・タイピング技能を向上させる活動（キーボード、お絵かき等の活用）の指導を行うこと		・「Forms」のアンケートや小テストで、写真データやwordファイルを添付・提出する方法に				

北杜市 ICT ステップアップシート

2　児童が日常的に一人一台端末を活用できるようにする。

3　主体的・対話的で深い学びが達成された具体的な姿を教員と児童等が共有する。

4　ICT を授業に活用する事により，どの児童においても，主体的・対話的で深い学びが実現されるようにする。

5　災害等による休校にあっても，ICT を活用して教育活動が継続されるようにする。

6　学級づくりに資する活動を、朝活動の時間（やまなみ）で週１回行うとともに、教育活動全般を通して、

行っていく。そのために、学級アセスメントに基づき、その学級に必要な活動を検討し計画する。

Ⅳ　研究の基本的な考え方

1　ICT の活用（情報活用能力）

【情報教育の３観点８要素】

情報活用の実践力
- 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

情報の科学的な理解
- 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- 情報を適切に扱ったり，自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

情報社会に参画する態度
- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- 情報のモラルの必要性や情報に対する責任
- 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

ICT の活用とその能力については，『教育の情報化の手引き-追補版　（文部科学省 2020)』において「情報活用能力」として以下のように，定義されている。

『「情報活用能力」は，世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力で

ある。』とされている。

その具体的な例としては，『学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり，情報を整理・ 比較したり，得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり，必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり，さらに，このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や，プログラミング的思考，情報モラル等に関する資質・能力等も含むものである。』とある。本校では，この定義に従い，これらの能力を身につけさせ，生かすことにより，以下に述べる「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることを目指している。

2　主体的・対話的で深い学び

現行の学習指導要領において，児童たちに身につけさせたい力は「生きる力」であり，その資質能力として①学びに向かう力と人間性（学んだことを人生や社会に生かそうとする）②知識及び技能（実際の社会や生活で生きて働く）③思考力・判断力・表現力（未知の状況にも対応できる）が挙げられている。これらの資質能力をはぐくむためには，授業改善が求められ，授業が「主体的・対話的で深い学び」になっているかが，その視点として示されている。

ここでいう「主体的・対話的で深い学び」のうちの「主体的」とは「児童自身が興味を持って積極的に取り組むとともに，学習活動を自ら振り返り意味付けたり，身に付いた資質・能力を自覚したり，共有したりすること」であり，「対話的」とは「自分と他者の意見や考え方を比較したり，自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら，考えを広げたり深めたりする。」である。なお，この対話の相手は児童同士に限らない。さらに「深い学び」とは「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりする」ことに向かう学習活動を言う。(『中央教育審議会答申』平成 28 年 12 月より）

3　ルールとリレーション

学級づくりの目標は「居心地のいい、やる気のある学級」をつくることである。それは、言い換えれば「ルールとリレーションのある学級」ともいえる。授業中のみならず、普段の生活の基本的な約束事が守られるとともに、児童同士、児童と教員の親和性が高く、相互尊敬、相互信頼の関係であることが、学級を居心地が良いと感じ、また、やる気のある学級であるということができよう。これら、ルールとリレーションの度合いについては、Q-U アンケートを用いて把握することができる。それに基づき、今その学級に必要なものはルールなのか、リレーションなのか判断することができる。

4　共同体感覚（所属感・貢献感・信頼感・自己受容）

オーストリアの精神科医、アルフレッド・アドラーは、人の幸福のバロメーターとして共同体感覚を挙げた。また、その育成こそ、教育の目標であると指摘した。共同体感覚とは、所属感（私はこの学級、学校の一員である。）貢献感（私は役に立つ人間である。）信

頼感（友達や先生は、私の仲間である。）自己受容（長所も短所もある私を私は受け入れている。）の４つの視点からとらえることができる。先にあげたルールとリレーションが、学級で目指す指標であることに対し、共同体感覚は、その構成員である一人一人の名ではぐくまれるべき指標であるともいえる。

5　授業を通しての学級づくり

朝活動（やまなみ）や学級活動の時間に例えば、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、クラス会議、グループワークトレーニング等を意図的計画的に行うことが学級づくりの基礎を作り上げるために必要不可欠であるとともに、普段の授業を通して例えば友達の意見を大切にしあう姿勢をつくり、そのうえで対話的な学びを進めていくことが、日常的な学級づくりに役立つのではないかと、本校では考えている。特別な時間と、日常的な時間を関連付けて、学級づくりを展開していきたい。

Ⅴ　研究組織

校長　　教頭

研究主任　佐藤　　研究副主任　田中

特別支援教育ブロック	学級づくりブロック	授業づくりブロック
校長	教務主任	教頭
蓮沼◎	清水（真）◎	花澤◎
土屋	植松（志）　茂木	田中　堀内（美）
横山	武藤　大久保	清水（真）　清水（建）
	川口	油井　堀内（綾）

Ⅵ　研究方法

1　児童の困り感をとらえ、支援の方法を（特別支援教育ブロック）

WAVES（見る力のアセスメントとビジョントレーニング）

2　共同体感覚をはぐくむ学級づくり（学級づくりブロック）

ルールとリレーション　共同体感覚（所属感・貢献感・信頼感・自己受容）グループワーク　授業

3　ICT の活用等により，どの児童においても，主体的・対話的で深い学びが実現される。（授業づくりブロック）

問いを児童が作り、主体的に追及する授業　ふりかえり

Ⅶ　研究計画

令和5年度小淵沢小学校校内研究年間計画		
令和5年4月24日（月）	第１回校内研究	研究の方向性 ・組織づくり
令和5年５月22日（月）	第２回校内研究	研究計画（ブロックごと）　**PLAN**
令和５年6月12日（月）	第３回校内研究	各ブロックの進捗の交流　**DO**
令和５年8月18日（金）	第４回校内研究	学級づくり（特別支援教育）に関する研修会
令和５年9月４日（月）	第５回校内研究	各ブロックの進捗の交流　**CHECK**
令和５年10月23日（月）	第６回校内研究	研究授業（学級づくり）　**ACTION①**
令和５年11月13日（月）	第７回校内研究	研究授業（授業づくり）　**ACTION②**
令和５年11月27日（月）	第８回校内研究	研究授業（特別支援教育）　**ACTION③**
令和５年1月15日（金）	第９回校内研究	研究のまとめ
令和５年３月11日（月）	第１０回校内研究	研究のまとめ